

要請書

日本軍による慰安婦問題について首相としての謝罪と 政府による賠償を求めます

戦争中、日本軍の「慰安婦」とされた女性たちは、戦後も長年月、苦しみ、悲しみを胸にし、沈黙を守って暮らさなくてはなりませんでした。

国家権力による性奴隷を正当化する橋下発言が世界の憤激に会っていますが総理は「自民党の立場とは全く違う発言」と述べるに止まっています。また、第1次安倍内閣当時の2007年、ブッシュ米大統領（当時）との首脳会談で「元慰安婦の方々に、首相として心から同情し、申し訳ないという気持ちでいっぱいだ」と述べたことを、国会では発言しなかったと答弁しています。

本年2月にも「(旧日本軍が)人さらいのように人の家には行って行って慰安婦にしたことを示す文書等は無かった」と答弁するなど貴殿の一連の発言は事実に向き合わず、言いのがれに終始し、「慰安婦」とされた犠牲者を改めて深く傷つけています。東京裁判に提出されていた「慰安婦」関係の証拠書類等、日本軍の関与は明白な事実です。

「慰安婦」とされ、一生を台無しにされた女性たちが命あるうちにその尊厳と名誉回復を一刻も早く実現させてください。

私たち日本国民が国際社会で良識ある一員として認められるためにも、下記のことを要請します。

- ① 日本政府は「慰安婦」問題の真相究明を行い、被害者に公式謝罪と法的賠償を行うこと。
- ② 次世代に「慰安婦」問題を歴史の事実を踏まえ伝えていくこと。

2013年5月23日

新医協（新日本医師協会）理事会